

容体急変 - いざという時に 看護部で勉強会

患者様の容体が急変した時、どのように対処すればいいのか？ 看護部の一般病棟を中心にした看護師約80人が17、18日の2日間に分かれて、ロールプレイングを交えた勉強会を開きました。

この勉強会は、患者様の容体急変に立ち会った際に、あわてずに最善の方法で救命処置を行うことを目的に開かれた。特に夜間の場合、昼間に比べて看護師など人数が少なくなるため、手際のいい対応が求められています。

勉強会ではまず、心肺蘇生法について実習。胸骨圧迫による心肺蘇生法や人工呼吸を人形など相手に体験しました。心肺蘇生法は、胸骨部分を1分当たり100回以上のリズムで、30回実施し、人工呼吸を2回のサイクルで繰り返します。胸骨圧迫は約5cm沈む力で押すため、1人が行うには約2分が限度で、交代することが必要などの注意点が示され、病院で使われているAED（自動体外式除細動器）の使い



方も説明しました。ロールプレイングは、早朝、患者様の容体が急変、心拍停止状態になったという設定で行われました。発見者はまず、ナースコールを使って応援を要請。すぐに胸骨圧迫の心臓マッサージと人工呼吸による処置にかかります。応援者は、心肺蘇生のための薬剤や気管内挿管のチューブなど、救命に必要な資材を積んだ救急カートと酸素ボンベ、吸引器を運びます。ベッドわきの障害になるものを取り除き、医師が到着するまで心肺蘇生法を交替で実施。家族など患者さまの身内に対しては、不要な動揺を与えないように容体が急変したことを伝え、到着時間を確認し、事故のないように落ち着いて病院に到着するよう伝えることなどを学んでいました。

看護部内科病棟の倉持絵美さんは「急変に立ち会ったことありません。心肺蘇生も病院内という現場の環境で学ぶことは少なく、勉強になりました。新人の私でもできることがあり、患者様を助けることができればと思いました」と話していました。

平成26年6月19日

